

Back Number

本論文は

世界経済評論 2021 年 7/8 月号

(2021 年 7 月発行)

掲載の記事です

2021年7月15日発行(7月号(金銭月)発行)
1963年創刊・通巻719号
世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤
世界経済評論 7・8月号
2021 Vol.65 No.4
World Economic Review



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

日本開国の原点 ：ペリーを派遣した大統領 フィルモアの外交と政治

外務省経済局国際貿易課長 安部 憲明



[著者] 大島正太郎 (おおしま しょうたろう)
[発行] 日本経済評論社, 2020年5月刊
[判型] 四六判, 304ページ
[定価] 本体3000円+税

著者は、本誌読者にも馴染み深い世界貿易機関(WTO)の上級委員会委員、韓国大使、ジュネーブ国際機関大使、外務審議官を歴任した熟練の外政家である。「日米関係の節目をその時々の米国政治史の中で見ておきたい」との問題意識が、本書の日本開国というテーマで偶々具体化されたに過ぎない、と述べる。

本書は、黒船派遣を命じたアメリカ合衆国第13代大統領ミラード・フィルモア(1850-53年)の外交政策と、それを導いた米国の内外情勢を検証する。人物に時代精神を宿らせる歴史の見方は、まさに開国を「時代の寵児」たるペリー提督の個人的偉業に帰する教科書の記述に象徴的だが、著者は、この東インド艦隊司令官の知略と胆力を認めつつ、史実の本質が、所与

の政治環境下での本国政府の政策決定と執行の帰結であることに読者の正当な注意を向ける。

本書は、開国政策の原因を、黒船の触先から航路を遡るように19世紀の米国の国内情勢に求める。その先に居るフィルモアは、リンカーン登場前の混沌期にその任にあり、米国でも閉却された存在だ。

西方拡張に伴う新州編入は、若き連邦国家に奴隷州拡大の是非の難問を突きつけた。建国以来の憲法秩序と統合の危機に際し、フィルモアは北部諸州の経済界に基盤をもつホイッグ党の大統領として、北部商工業の保護振興や大陸横断鉄道建設、太平洋航路の整備を主唱した。奴隷制農業を基盤に、綿花輸出と自由貿易を死守せんとする南部諸州との対立が不可避の情勢で、議会人が口角泡を飛ばし、大統領を圧倒した時代でもある(本書表紙は、奴隷解放を急ぐ北部急進派には不評の「1850年の妥協」案の上程を見守るフィルモア副大統領の挿絵だ)。著者は、地方の歴史図書館で発掘した大統領宛書簡やオランダ国王の演説に拠り、対外面について、英仏と東アジア覇権を争う蘭と米の利害一致を見る。日本遠征隊派遣を表明した大統領年次教書(1852年)に、これら内外の構造的要因の焦点が結ばれる。

著者は、「南北戦争に先立つ分断以来最も深刻」な目下の米国内状況が、本書に今日的意義を与えたと言う。フィルモアが先鞭をつけた日米関係史は、ペリーやリンカーンという強い個性の放射光に遮られた歴史の盲点だったが、そこに光を当てたのは、物事の本質を見つめる著者の眼力である。著者が巻末で触れる「ものの見方」とは、ある国の政治や経済社会を重層的に洞察し、複眼で理解する視座のことだろう。

翻って、最近も我々は、史上稀に見る大接戦や新政権始動を刹那的に追う報道や論考に晒され、かなり米国通、のはずである。表層でなく本質に括目すべし。歴史家にして外交官の「ものの見方」は、後輩への叱咤に響いた。

(あべ のりあき)